



# 例会報告

高山西ロータリークラブ

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988  
大垣共立銀行 高山支店 4 F
- 会長 井辺 一章
- 幹事 堺 和信
- 会報委員長 田中 晶洋



晩秋夕景 田中 晶洋

## <会長の時間>

12 月に入ったと聞くだけで寒さを感じる師走となりました。

先日、本町 2 丁目の有志会へ出席させていただきました。皆さん私と変わらぬ年齢もしくは年上の女性ばかりの中へ、今年初めて私含め男性 3 人が仲間入りさせていただきましたが、手品・歌・吟等々、余興が次々と出る楽しい会でした。女性のパワーに圧倒され、組織での女性の存在がもたらす利点を実感させられる一日となりました。



## ◎夫人誕生日 (当日ご自宅には花束をお届け)

- 抜土 貞吉 輝子 さん 12. 12
- 長瀬 達三 佳奈子 さん 12. 3
- 井上 正 麻里亜 さん 12. 24
- 田邊 淳 智子 さん 12. 4

## ◎結婚記念日 (左より)

- 大村 貴之 H12. 12. 25
- 鴻野 幸泰 S61. 12. 1  
(当日欠席)
- 遠藤 隆浩 H23. 12. 30



## ◎出席表彰

ナシ

## ◎在籍周年記念表彰 (当日欠席)

- 遠藤 隆浩 15 年

## ◎3ヶ月表彰

- ・榎坂 純一
- ・大村 貴之
- ・萱垣 敬慈
- ・塚本 直人
- ・平 義孝
- ・松川 英明

## <幹事報告>

### <例会変更>

- 高山中央 … 12 月 19 日 (月) は、忘年例会のため  
18:30~ ひだホテルプラザ に 変更
- 12 月 26 日 (月) は、定款により 休会
- 2017 年 1 月 2 日 (月) は、法定 (振替) 休日により 休会
- 2017 年 1 月 9 日 (月) は、法定休日 (成人の日) により 休会
- 2017 年 1 月 16 日 (月) は、新年家族例会のため  
18:30~ ひだホテルプラザ に 変更

### <受贈誌>

R I 日本事務局 (財団室 NEWS 2016. 12 月号)、社団法人高山市文化協会 (広報高山の文化)、岐阜県環境生活部人権施策推進課長 (人権だより No. 67)

## <出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	29 名	2 名	31 名	39 名	79.49%
本日	31 名	—	31 名	39 名	79.49%

## <本日のプログラム>

### お祝い

#### ◎会員誕生日 (左より)

- 向井 公規 12. 21
- 高桑 光範 12. 10  
(当日欠席)
- 新井 典仁 12. 1
- 榎坂 純一 12. 17



## 年次総会

2017~2018 年度 役員・理事候補者についてご承認いただきましてありがとうございます。皆様のご協力を心からお願いいたします。

会長エレクト 米澤 久二



理事				役員			
直前幹事	国際奉仕委員長	社会奉仕委員長	職業奉仕委員長	クラブ奉仕委員長	副幹事	S 会 長	幹事 長
堺 和信	下屋 勝比古	井上 秀正	垣内 秀文	田中 正信	井辺 一章	田中 幸武	内田 幸洋
米澤 久二	門前 次郎	堀野 和信	内田 幸洋	田中 幸武	井辺 一章	田中 幸武	内田 幸洋

# 例会報告

## 青少年育成委員会 出前講座報告

萱垣 敬慈

先月16日に行われました出前講座について報告いたします。

私が担当させていただいたクラスは8名でした。まず初めに私を含め生徒達との自己紹介を終えた後、それぞれに将来なりたい職業や夢はありますか?と問いましたところ、8名中6名が「あります」と即答しました。この問いに対して「いえ、まだ決まっていません。」や「これから高校に進学して考えます。」という返答を予想していたものですから、明確な目標を抱えていることに非常に驚きました。

事前の打ち合わせで講話の中に入れる内容として五つの項目がありました。私はその中の「人を大切にすること」という項目について主に話をさせていただきました。高山に帰ってきてからの14年間、たくさんの人に助けられたこと、そして今も大勢の人たちに支えてもらいながら仕事と生活ができていて、悩みや喜びを共有できる仲間が周りにいる幸せを実感していることを伝えたいつもりです。

持ち時間を40分いただいていたので前半の20分で今話しました「人を大切にすること」とその他に「お金を稼ぐ」ということ「中学生としてしなければいけないこと」を話しました。私自身現在、中学生の子供がいますので今の中学生達が置かれている環境や、どういった学校生活を送っているか、なんとなく分かっているつもりでいましたが、いざ我が子以外の中学生達と面と向かって話をしてみると、予想以上にしっかりしているなという印象を受けました。

最後に生徒たちに進学等で高山から一度離れても、是非故郷に帰ってきてこの高山で仕事をし将来の高山を盛り上げていってくださいとお願いをして終わりました。

高桑 光範

今回の出前講座は清見中学校70名が対象で、分科会は9つに分かれ、1分科会7~8名、1年生から3年生が混在するチーム構成で行われました。

銀行支店長として学生を対象にお話をさせていただく機会は、例えばインターンシップや就活学生の職場訪問であるとか、割りと多くありますので、今回もいつものようにそれなりに準備をして講座に臨んだわけです。40分間だし、十分に時間はあるな、と。

さて、分科会の始まりです。まずは宣伝も兼ねて、本音は親御さんたちへのPRのためですが、OKB大垣共立銀行の商品やサービス、あるいは経営状況を分かりやすく解説し、しかも美しい3人の女性「OKB3」が表紙を飾るディスクロージャー誌と、今年3月に創立120周年を迎えたことを機にお客様配布用に発刊した「OKB新聞」、そして自己紹介のメモをみんなに配りました。

「大垣共立銀行を知っている人?」まあ予想通り手は上がりませんよね。これは想定内でした。如何せん、高山へ進出してまだ17年しか経っていない銀行ですから…。いや、待てよ。彼、彼女たちは中学生1年生から3年生で、一番年上でも15歳。ということは生まれた時から大垣共立銀行は既に高山にあるわけ。そうか、何処の銀行云々というよりも、銀行そのものに殆ど馴染みがないんだと悟ったわけです。

「それでは、銀行って何をするといいところか、何のために銀行がある



か分かりますか?」小さな声で「貯金をするところ」「そうですね。銀行はお客様からお金をお預かりして、それに対し利息をお支払します。家にお金をただ置いておいても何も増えませんから、銀行にお金を預けるわけです。でも銀行は利息をお支払いし続ければお預かりしたお金は当然減って行ってしまいます。だから銀行は、お預かりしたお金を元に、家を建てたい人や、工場を建てたり機械を買いたい会社にお金を融資して、そのかわりに今度は銀行が利息をいただくわけです。このとき預金利息より高い金利で融資利息をいただければ、その差額が銀行の利益となるわけです。でも最近は日本の景気がとても悪くて金利がもの凄く低いです。僕が銀行に入った頃なんか、預金の金利は1年で6.33%あったんですよ。もし1億円預ければ利息だけで1年間で633万円入ってきて、もう預金だけで生活できてしまう。」こんな話をしていると、先生も含めて、「へー」とって大きな反応があつて。思わず銀行の仕事について語り始めてしまったのです。

気づいたときには既に30分が経過。大失態でした。余裕で構えていたはずが残り10分。そこから準備していた、①なぜ銀行員になったのか、②銀行員としての仕事のやりがいについて、③仕事をするうえで大切にすべきこと、以上3点についてA4用紙2ページ半に書きしたためてきたことを、要約に要約して7分程度で訴えました。そして最後の3分を質問時間に。大反省しています。実はこんな分科会の進行であったのに、中学校からのお土産の蜜のしっかり詰まった飛騨りんごだけはしっかりと全ていただいて帰ったことも含めまして、井辺会長、塚本青少年育成委員長、大変申し訳ございませんでした。

せめてもの救いだったのは、最後の生徒会長のお礼の言葉でした。なんと、私の分科会の参加生徒でした。平静を装いながらも内心ドキドキして聞いていましたが、流石は生徒会長、私が本当に言いたかったことを事も無げに上手にまとめてくれたではありませんか!感謝感激です。

こんな報告をすると、「そりゃ高桑さん、来年も決まりだな。」こうなるはず。来年も高山支店長として続投していれば、かつ特別の行事と重ならなければ、十分に覚悟は出ていますので、何卒よろしくお願いたします。

一つの失敗事例としてご報告申し上げ、私の発表を終わります。

杉山 和宏

今回初めて出前講座の分科会を担当させていただきました。3年生を3名含む6名の生徒を前に、私の仕事の内容、仕事に対する心構えなどについてお話をさせていただきました。

事前に塚本委員長から「講話に入れていただきたい内容」をいただいておりますが、一番気になったのが「何故、現在の職業に就いたのか?」ということです。「私は後継ぎです。仕方なくこの仕事になりました」などと言うと、生徒たちの夢を奪ってしまいますので、創業した祖父について時代背景などを踏まえて話させていただきました。祖父は元々岐阜に住んでいましたが、戦後母方の実家のある高山へ来て、友人と3人で電気屋を始めました。その頃、戦後の復興の役に立ちたいという思いが基本にあると伝えさせていただきました。生徒たちは真剣に話を聞いて、後の感想文にもそのことを書いてくれていました。思いのほか伝わっていたことから、とても嬉しいと同時に、話す側の責任も感じました。

会社の成り立ち、仕事内容、難しかった現場などについて話した後、ひとりの女子生徒が電話応対ひとつでそんなに変わるのか?と質問してくれました。メールでのいじめなども問題になっているの



## 例会報告

と同じで、相手の顔が見えない電話だからこそ、言葉遣いに注意し、相手の気持ちを感じながら話す必要があると説明しました。電話応対ひとつで注文が倍にもなれば、0にもなってしまうということです。

将来、聞いてくれた生徒の誰かが当社の募集に来てくれたらなあど密かに期待しています。機会があれば、また参加したいと思っています。ありがとうございました。



### <ニコニコボックス>

#### ●高山中央RC 永井 信次さん

先日の地区大会の折には大変ありがとうございました。今日はメーキャップさせていただきます。宜しくお願いします。

#### ●井辺 一章さん、堺 和信さん

- ・高山中央RC永井 信次様のご来訪を歓迎します。
- ・高山祭り「山・鉾・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に指定されました。大変喜ばしい事ですが、少子高齢化の中、次世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。
- ・森トラストが上一之町の老田酒造跡地を取得し、高級外資ホテルを誘致するようです。駐車場よりはいいですが街並みが大きく変わりそうです。
- ・本日の例会はプログラムの前に年次総会を行いますのでお願いします。またプログラムは青少年育成委員会担当で、先日行いました出前講座の報告です。萱垣さん、高桑さん、杉山さんよろしくお祈りします。

#### ●鴻野 幸泰さん

11月28日家内の誕生日に綺麗な花束を頂き誠にありがとうございました。

#### ●下屋 勝比古さん

我が家の3番目が大学合格し高い学費を納金しました。ますます脛とお腹が細くなります。

#### ●塚本 直人さん

いよいよ師走に入りました。あっという間にクリスマスがやってきそうです。11月30日に井辺会長の宝生閣にて青少年育成委員会行事の「出前講座」反省会を行いました。井辺会長・堺幹事のお気遣い、参加の皆さんのご協力に感謝いたします。無事一つの事業が終了しました。ありがとうございました。

#### ●斎藤 章さん、下屋 勝比古さん、大村 貴之さん、田中 晶洋さん、杉山 和宏さん

11月30日の出前講座お疲れ様会では、会長の御好意で少しの会費でたくさんお呼びいたしました。ご馳走様でした。清見中学校の生徒からのラブレター(?)も感動的な内容ばかりで、講師の私達の方が勉強させられる事ばかりでした。また機会があれば協力させていただきます。

#### ●田近 毅さん

この度「田近医院」を「田近ハートクリニック」に名称変更し、息子田近 徹が院長となりリニューアルオープンしました。12月3日(土)の内覧会にお気軽にお越しください。今後共よろしくお祈り致します。

#### ●狭土 貞吉さん

我がかかりつけ「田近ハートクリニック」のオープンおめでとうございます。お仕事させて頂きありがとうございました。

#### ●伊藤 松寿さん、内田 幸洋さん、斎藤 章さん、門前 庄次郎さん、古橋 直彦さん、井辺 一章さん、米澤 久二さん、垣内 秀文さん、大村 貴之さん、井上 正さん、松川 英明さん、高桑 光範さん

この度「田近医院」は「田近ハートクリニック」へと名称変更し、12月5日リニューアルオープン致します。医療設備を充実させ『かかりつけ医』として、また『循環器疾患の専門医』として、地域の皆様にお気軽にご相談頂けるクリニックを目指します。リニューアルオープンおめでとうございます。

#### ●古橋 直彦さん、田中 武さん、田中 正躬さん、田邊 淳さん

高山祭の屋台行事を含む「山・鉾・屋台行事」が12月1日、ユネスコ無形文化遺産に登録される事が決定しました。登録記念行事が本日午後5時より市役所正面玄関で開催されます。是非皆様お出かけ下さい。また、午後6時からお祝いの花火が打ち上げられます。



### 座右の銘

門前 庄次郎  
『一生懸命』



改めて考えると、私にはこれと言うものが無いように思います。ただこの言葉は、何かを行う時、いつも頭の片隅に置く様務めています。

『一生懸命』。愚直で面白味の無い言葉ですが、一番大切にしたい言葉だと思っています。

「親の背を見て育つ」と良く言われます。これは言葉でなく、直向きな親の姿を見て育つのだと思いますが、この事は子育てだけで無く、全ての事に通じると思います。

仕事に於いても様々な活動に於いても、直向きな取り組みが、他の人を動かす原動力になると信じています。